

「あたりまえ」を愛おしむ

親育ち 4 3 6 3 たじみプラン 事務局

木々の枝葉がつくる薄暗がり、さわやかに感じられる季節になりました。

入学からおよそ 3 か月、小学 1 年生の通学の足取りも、少しずつたのしくなっています。この時期の、あたりまえの風景です。しかし、汗をぬぐいながら登下校する笑顔の奥で、ずいぶんスリム化されたとはいえ、大きく重い背負いカバンに、小さな肩や背を揺さぶられながら、懸命に心の汗を流している子も、きっといるでしょう。

自分で起きる、自分で着替える、お手伝いをする、自分から挨拶する、進んで宿題をする…。その子の成長を心から願えばこそ、私たちはこれらの姿を「あたりまえ」として見がちです。しかし、その姿の奥にある、その子の心の努力に思いをはせたとき、あたりまえのこととして見えていた姿が、いじらしく、愛おしく見えてきます。

「すごいね」「よくがんばってるね」「できないこともだいじだよ」「まちがってもいいんだよ」

私たちがそんな思いで子どもたちにかける言葉や、接する手は、もしかしたら、力強い励ましよりも、はるかに熱い勇気の火を、その子の心に灯すかもしれません。

（教育推進課 家庭教育担当）